

2021年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	特定非営利活動法人 和	代表者	鈴木 峯保	法人・事業所の 特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・「和 なごむ」「安心」「創造」 ・住み慣れた家で、なじみの地域で、家族や地域の方々と共に支え合い、安心して生活できるように支援します。 ・長い年月重ねてきたこれまでの生活を、なじみの職員が24時間365日切れ目なく支えます。 ・一人ひとりの気持ちに向き合い、寄り添って、希望ある生活の提案をします。 ・介護している家族の方々を支えます。
事業所名	小規模多機能ホーム いつものところ	管理者	大場 陽子		

出席者	市町村職員	知見を 有するもの	地域住民 地域団体	利用者	利用者家族	地域包括 支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計	
	1人	人	3人	人	8人	1人	人	人	人	13人	

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の 確認	事業所会議の中で、定期的に改善計画について話し合い、できていることは継続し、できていないことは、全員で改善できるように取り組んでいく。	会議等で定期的に改善計画の確認を行い、各職員が意識をして、より良い支援を行うことができた。	単に「できている」「できていない」という結果のみで判断するのではなく、自己の取り組みに対して、質の向上を図るように意識して取り組んでいくことが大切だと感じた。	事業所会議の中で、定期的に改善計画について話し合い、できていることは継続し、できていないことは、全員で改善できるように取り組んでいく。
B. 事業所の しつらえ・環境	事業所内の環境整備（換気・温湿度・明るさ等の管理、手洗い・消毒、掃除）に力を入れ、居心地のよい空間作りをする。	手洗い・消毒・掃除を徹底し、定期的な換気、湿度確認等をして、居心地のよい空間作りをした。	建物周辺、エントランスなど、いつも綺麗で気持ちが良い。	引き続き、事業所内の環境整備（換気・温湿度・明るさ等の管理、手洗い・消毒、掃除）に力を入れ、居心地のよい空間作りをする。
C. 事業所と地域の かかわり	コロナ禍のため、地域のイベントに参加が難しい状況である。出勤や退勤時、散歩時等には、地域の方たちに挨拶をし、短い時間でも地域の方たちと交流できるようにする。	地域の方たちに会ったときは、挨拶をして交流することができた。地域の方たちには、いつも野菜など頂いている。	コロナ禍が続く間、現在の状態が続くと思われる（行事、イベントの中止、人との交流制限など）。地域行事があれば参加していると思われる。	事業所内での取り組みを知ってもらうため、外部の方が事業所付近を通ったときに、取り組み内容が分かるよう作品の掲示などを行う。
D. 地域に出向いて 本人の暮らしを支える取組み	新型コロナウイルス感染症対策をしつつ、日常的に利用者と散歩に出かけ、地域の方たちと関りを繋いでいく。	新型コロナウイルス感染症予防をしながら、可能な限り、散歩をするように心がけた。	職員と利用者が散歩しているのをよく見かける。	新型コロナウイルス感染症対策をしつつ、日常的に利用者と散歩に出かけ、地域の方たちと関りを繋いでいく。
E. 運営推進会議を 活かした取組み	新型コロナウイルス感染症が収束するまで運営推進会議の開催は難しく、書面報告になると考えられる。書面では伝えきれない事業所内での取り組みを知ってもらうため、外部の方が事業所付近を通ったときに、取り組み内容が分かるよう作品の掲示などを行う。	新型コロナウイルス感染症予防のため、事業所での会議は実施していない。事業所関係者には、資料を配布し、取り組み内容の説明を行った。 事業所での取り組みが分かるよう、作品の掲示を行った。	事業所前を散歩で通ると、事業所内での行事の写真や作品が見えるようになっているので見ている。 運営推進会議が書面開催のため、情報や意見が一方通行になっている。	新型コロナウイルス感染症が収束するまで運営推進会議の開催は難しく、書面報告になると考えられる。書面・対面開催にするにしても、情報や意見を共有し、より良い支援につなげていく。
F. 事業所の 防災・災害対策	福祉避難所という自覚を持ち、災害時に備えて、各職員が備品や備蓄物資等の種類や数量、保管場所等の確認を定期的に行っていく。新型コロナウイルス感染症が収束したら、通常どおり、ホーム内や避難訓練の見学なども行っていく。	地域の方たちとの訓練はできなかったが、事業所内で定期的に避難訓練を行い、事業所内の研修で、備品や備蓄物資等の種類や数量、保管場所の確認を行った。	コロナ禍ではあるが、訓練の実施、非常災害対策計画に盛り込む内容を確認し、対応を検討してほしい。	福祉避難所という自覚を持ち、災害時に備えて、各職員が備品や備蓄物資等の種類や数量、保管場所等の確認を定期的に行っていく。新型コロナウイルス感染症が収束したら、通常どおり、ホーム内や避難訓練の見学なども行っていく。